

「図画工作科」学習指導案

1. 日時 令和3年10月
2. 場所 教室
3. 学部・学年・組 小学部 第1学年
4. 単元（題材）名 「すなで あそぼう」

5. 単元（題材）の目標

- ・ 砂に触れて、感触や形の変化に気付く。（知識及び技能）
- ・ 砂あそびを通して、自分なりのイメージを持つことができる。（思考力、判断力、表現力等）
- ・ 様々な手指の操作を通して、砂あそびを楽しむことができる。（学びに向かう力、人間性等）

6. 児童観 略

7. 教材観

4月に入学してから、図画工作の授業では「新聞紙あそび」「寒天あそび」等、様々な素材を使って感触あそびを行ってきた。初めはどう遊んでよいか分からない児童も、回数を重ねる中で自分なりに素材に関わろうとする姿が見られた。本単元では、児童にとって身近な砂あそびを設定した。砂は、握ったり押したりして形を変えたり、作ったり壊したりして可塑性を楽しむことができる素材である。砂のざらざらした感触や、ひんやりした感触等を手のひらや体全体の感覚を働かせて味わい、思いのままに表現する楽しさを味わうことができる。また、つかむ、握る、指先で穴をあける、手形をつける等の様々な手指操作を経験することを通して、砂の感触や形の変化に気付き、進んで素材に関わろうとする姿勢を育てていきたい。

本学級の児童の中には何でも口に入れてしまいやすい児童が2名いることから、安全面にも配慮し万が一舐めてしまっても安全な砂（キネティックサンド）を選定した。またこの砂は、通常の砂場の砂に比べて、手につかず乾いた状態でもまとまりやすい。感覚過敏のある児童でも安心して手に取りやすく、砂あそびの面白さを体験することができるのではないかと考えた。

8. 指導観

本単元では砂あそびを行うが、児童の中には経験の少なさや興味・関心の狭さから、自由なあそびの中で自ら素材に関わったり、工夫して遊んだりすることが難しい児童もいる。「できた」という達成感を得られるようスモールステップでの学習過程を設定したい。また、発達段階を考慮して、シャベルや容器などは使用せず、様々な手指の操作を通して砂の感触や形が変化する面白さを感じさせたい。砂あそびを通して、児童が感触や形に気付いたり感じたりしたことを言語化し、「ふわふわ」「まっすぐ」「やま」「おだんご」等の言葉を添えることで自分なりのイメージが持てるようにしていきたい。

砂という素材の特徴の一つとして、可塑性があり何度でも遊べることが挙げられる。そのため、学習の終わりには作ったものや遊んでいた形が残っていないことが多い。そこで、遊んでいる様子を iPad で録画し、振り返り時に動画を見ることで遊んでいたことを思い出したり、友だちがどんなことをして遊んでいたか知ったりすることができる考えた。

9・単元（題材）の評価規準

A 知識 ・ 技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
①砂に触れている。 ②砂の感触や形の変化に気付いている。	①感触やできた形を基に、自分なりのイメージをもっている。	①進んで砂あそびをしようとしている。

10．単元（題材）の指導と評価の計画（全6時間 本時は4時間目）

次	時	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価規準 （評価方法）
一	1 2	すなを さわってみよう	・見る。 ・触れる。 指先で触れたり、手のひらですくったり、握ったりする。	・ 素材と関わる中での児童の気づきや、多様な関り方を大切にする。 ・ 感触が苦手な児童に対しては、教員が触っている様子を見せたり、感触を言葉にして伝えたりして児童のペースに合わせて遊べるように配慮する。	A①（観察） B①（観察） C①（観察）
二	3 4 5	すなで あそぼう	ならして手形をつけた り、穴をあけたりして遊ぶ。 山づくりをして遊ぶ。 おだんごづくりをして遊ぶ。	・ 活動内容を視覚支援カードや実演で見せ、イメージしやすくする。 ・ つくりたいものをつくったり、自由に遊んだりする時間を設けて、児童の主体的な学びを促す。 ・ 児童が繰り返ししていたあそびや、新しいあそびを試したりしている様子などを全体に伝えて、楽しさやあそびを共有する。	A②（観察） B①（観察） C①（観察）
三	6	まとめ	・ 学習の振り返りをする。 ・ みんなで山をつくる。	・ 動画を見て、今までの活動を振り返る。 ・ 一つの大きな山をつくり、学びを日常生活やあそびの場に生かせるようにする。	B①（観察） C①（観察）

11．本時の展開

（1） 本時の目標

- ・砂の形に注目したり、形の変化に気付いたりすることができる。(知識・技能)
- ・砂で山をつくるイメージをもつことができる。(思考力・判断力・表現力等)
- ・砂で山をつくって遊ぼうとすることができる。(学びに向かう力・人間性等)

(2) 本時の評価規準

- ・砂の形に注目したり、形の変化に気付いたりしている。(A②)
- ・砂で山をつくるイメージをもっている。(B①)
- ・砂で山をつくって遊ぼうとしている。(C①)

(3) 本時の準備物

- ・ホワイトボード、キネティックサンド、視覚支援カード、絵本「どろんこ どろんこ」、CD デッキ、CD、個人用トレイ、iPad、TV、ブルーシート、作業机

(4) 児童生徒の実態と本時の目標 略

(5) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援のてだて等	評価規準 (評価方法)
10分 導入	1、はじまりのあいさつをする。 2、活動内容を知る ①えほん「どろんこどろんこ」 ②すなであそぼう ・たからさがし ・できるかな? ③おもいだそう	・授業の始まりが意識できるよう、授業者への注目を促す。 ・話を聞くときは、ベンチ椅子に座り集中を促す。 ・予定カードを提示し、学習の見通しをもてるようにする。 ・視覚的にわかりやすいように手順を写真やイラストで示す。	
20分 展開	①絵本「どろんこ どろんこ」 ②すなであそぼう <u>・たからものさがし</u> ○さわる、つかむ、掘る等	・今までの経験を(砂場で遊んだこと等)を思い出し、イメージしやすいようにする。 ・視覚支援教材を用いて簡潔に説明したり、実演を見せたりして、活動内容が分かりやすくなるように工夫する。 ・児童の実態に応じて宝物の大きさを配慮し、事前に砂の中へ隠しておく。誤飲に留意する。	A② B① C① (観察)

	・できるかな？（山づくり） あつめる ○手のひらで集める、固める、 ○指先で穴をあける（トンネル） ○壊す（つかむ、握る、押しつぶす等）	・宝物を見つけた後は自由に砂で遊ぶ時間を設定する。 ・BGMを用いて、場の雰囲気づくりをする。 ・「ペタペタ」等、手の動きがイメージしやすいような言葉がけをする。 ・山づくりの他にも児童の多様な素材との関わり、遊び方を大切にする。 ・児童が思いついたあそびを言語化して全体に広めたり、思いを代弁したりして楽しさを共有する。 ・繰り返し取り組んでいたあそびや、新しいあそびの発見等、児童のあそびを観察する。 ・児童の遊んでいる様子を一人ずつ iPad で録画する。	
1 0 分 ま と め	③おもいだそう 鑑賞・振り返り 遊んでいる様子を動画で見て、振り返りをする。	・遊んでいる様子を撮影した動画を TV に映して、活動を思い出したり友だちの遊ぶ様子を知ったりすることができるようにする。 ・同じあそびや、部分的に似ているあそび、異なるあそび等を見つけて楽しさを共有し、児童同士をつなぐ言葉がけをする。 ・一見すると同じように見えるあそびでも、（動画に映し切れていない）前後の細かい部分で個々に頑張っていたところを認めて褒める。	

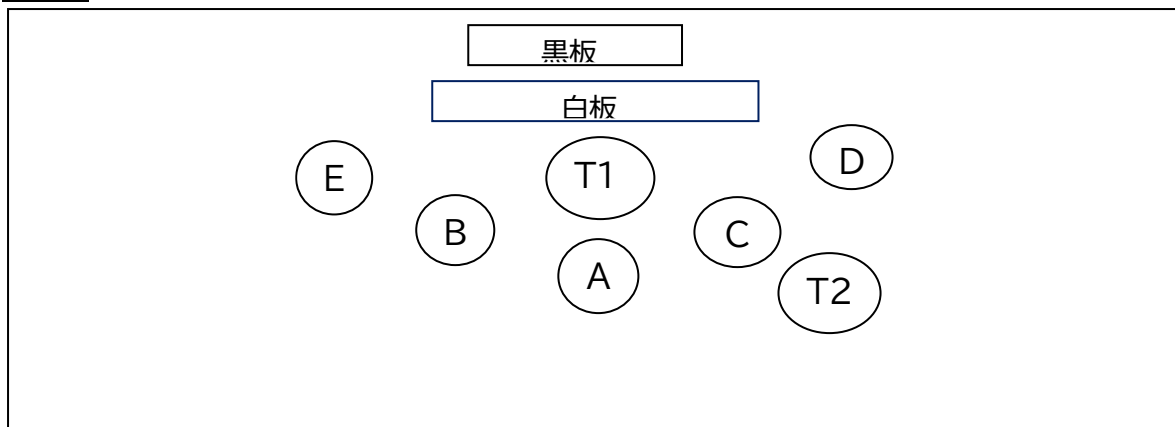
（６）教室配置等（正面を上にして、児童や教員の位置、教材・教具の位置、配置等を示す。）

板書計画

すなで あそぼう		
予定カード	図	図

教室配置図

導入時



展開・まとめ時

